

## 第4章 研究のまとめ

### 1 はじめに

新しい世紀を迎え、子どもたちに生きる力をはぐくむことを目指した教育改革は着実に進展し、様々な世論を巻き起こしながら社会的な認識を広げている。

なぜなら、急速に変化していく社会に対応していくための力を、一人一人の子どもが身に付けなければならないと誰もが感じているからである。特に、子どもたちの「心の問題」や「学力の問題」、「科学技術の進歩への対応」など解決しなければならない教育課題が山積しているからである。

このような状況を打開する方策の一つとして「自己コントロール力が育ち、自己肯定感が実感できる学習の在り方」の研究をスタートした。主題設定の理由でも述べたように、子どもたちの心の問題と学習活動を結びつけ、今日的な教育課題を解決するとともに、授業改善を一層推進したいと考え、その研究の基盤づくりに取り組んだ。

### 2 成果

第2章において様々な答申や調査報告などから子どもの現状を考察していく中で、自己コントロール力と自己肯定感を育てることが「生きる力」を育成する大きな要素になるということを確認した。このことを踏まえ、自己コントロール力と自己肯定感を育てる視点に立った学習指導を進めていくことの重要性、さらには学力にかかわる諸課題の解決、授業改善の推進に当たっても重要であることを確認した。

具体的には、第3章において自己コントロール力や自己肯定感を育成する視点として心理学的なアプローチと教科固有のアプローチを提起した。心理学的なアプローチでは、行動療法、ストレスマネジメント、構成的グループエンカウンター等の手法から学び、学習指導に応用できるプロセスを考察した。また平成10、11年度に行った当センターの研究事業「豊かな心を基盤にした生きる力をはぐくむ学校教育に関する研究」の成果を生かし考察した。その上で、中学校国語科の事例を基にして具体的な単元指導計画の中でどのような視点をもつことができるのか、具体的な学習指導の過程ではどのような指導に反映されるのかを考察した。これは新しい学習指導要領による指導の実際に生かされるものとする。

### 3 課題

第2章における子どもの現状認識を基に、今後は、京都府の子どもの現状を具体的に把握し、その背景や課題を明らかにしていくことが必要である。さらに、第3章で提起した自己コントロール力と自己肯定感を育成する方策については、文献に基づく研究が中心であったが、発達段階を踏まえた実践的な研究の中で検証しつつ、その効果や留意点、課題等をより明らかにし、研究主題に迫ることが必要であるとする。

### 4 おわりに

「新しい時代における教養教育の在り方について -審議のまとめ-」「教育改革国民会議 -教育を変える17の提案-」等が報告される度に、豊かな時代の教育の課題として取り組んでいる本研究が時宜に適ったものであることを確信する。同時に、この研究を成果あるものにするものの重要性を一層認識するものである。この研究は始まったばかりではあるが、人間性や創造性豊かな日本人を育成する21世紀の教育の原動力となるよう、教育の原点を踏まえ、新しい時代を眺望し、創り上げていきたい。